

Photo Gallery

# イムス三芳総合病院 新築移転とともにより 災害に強い急性期病院

# 地域に密着を として新たにスタート

日本内外に85の医療介護施設を運営するイムスグループは3月1日、今まであった埼玉県三芳町の隣接地に総合病院を新築移転し、新しいイムス三芳総合病院としてスタートした。このイムス三芳総合病院は1977年の開設以来、一貫して地域医療の中核を担ってきた。三芳厚生病院と称した時代もあり、そのときは急性期と慢性期医療が混在したケアミックス型病院だったが、2007年にイムス三芳総合病院と改名してからは、急性期医療を担う体制づくりを進めてきた。いよいよ新築移転が実現し、この3月から新しい三芳総合病院としてさらに地域医療に貢献する。

新病院は鉄筋コンクリート9階建て。敷地面積は1万4574.46㎡、延床面積1万4161.45㎡。病床数は238床と以前との変化はない。診療科は内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、糖尿病内科など19診療科を標榜。MRIほかの医療機器については最新の機器を導入しているため、都心の病院と遜色のない装備になった。さらに隣の富士見市にイムス富士見総合病院があり、旧三芳総合病院と合わせて、地域内の救急搬送の7割～8割を担っていたが、新病院でも同様。1階西側には救急センターを設け、救急医療への対応を目指す。

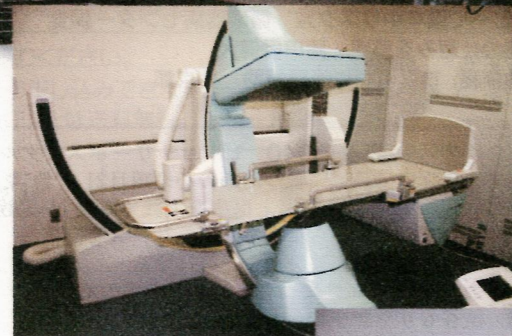
1階は開放的かつ機能的なホスピタルモールとした。外来の診療室も増え、とともに各診療部門が明快なゾーニング（配置）されたため、外来患者の動線が分かりやすく確保された。また建物全体に十分な採光を取り入れ、入院病棟および外来ともにゆったりとしたスペースを確保している。

## ■災害に強い病院づくりを

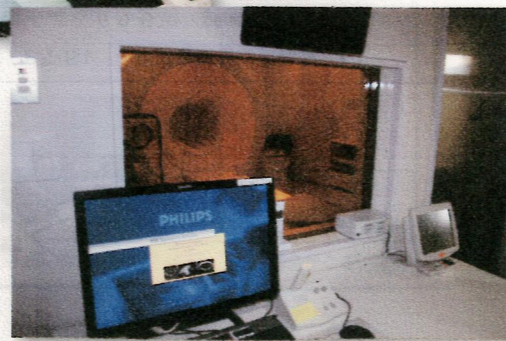
病院建築中に東日本大震災が発災し、一部設計を変更したという。それまでは災害発生時による停電時は最低限の照明がついていればいいとされていたが、震災の経験から少なくとも24時間は病院機能を発揮するだけの電気の確保が必要と判断。自家発電機の容量を大きくし、さらにはホスピタルモールには災害時には地域住民の避難スペースとして開放することとなっている。



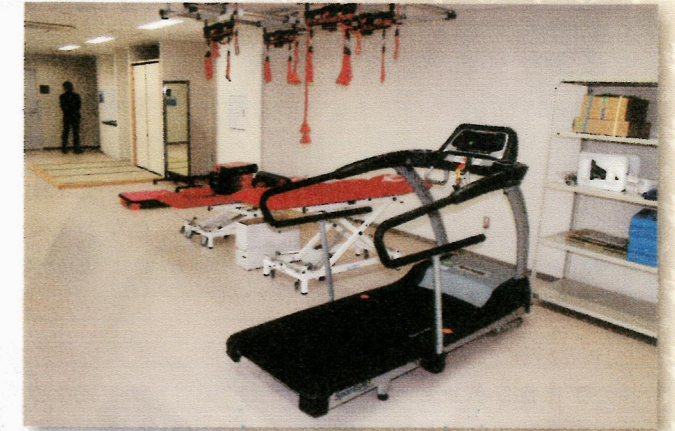
新築移転でスタートしたイムス三芳総合病院



消化管および血管造影検査などのレントゲン写真を動画で見られるX線テレビ装置



同じ患部をさまざまな条件で画像にできるMRI



リハビリ室



手術後の患者、重症患者に対応したHCU



快適な病室

## <施設概要>

住 所 埼玉県入間郡三芳町大字藤久保974-3  
高 さ 鉄筋コンクリート9階建て  
建築面積 3425.91㎡  
敷地面積 1万4574.46㎡  
延床面積 1万4161.45㎡  
病床数 238床  
駐車台数 約130台  
診療科 内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、糖尿病内科、腎臓内科、リウマチ内科、神経内科、外科、呼吸器外科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、小児科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、麻酔科